

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「【じょうほう】引用するとき」 教材名「【じょうほう】引用するとき」

2 単元の目標

引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ）

他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す。この教材では、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。想定する難しさは、ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。評価では、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかを、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 紹介する目的と言葉の出典を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○紹介する目的と言葉の出典を確かめる。自分の経験との関 係を図にする。伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の 考えを分けて紹介を書く。	思①（発言・活動中の記録・作 成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇 所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記 録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直し の理由）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

(B(1)ウ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「自分が考えたことと、資料の言葉はどこで区別できますか」 【めあて】他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「自分が考えたことと、資料の言葉はどこで区別できますか」 紹介する目的と言葉の出典を確かめる。自分の経験との関係を図にする。伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知りたい。 ・紹介する言葉と自分の意見を分けたい。 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。 想定する難しさ：ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。 評価では、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかを、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「自分が考えたことと、資料の言葉はどこで区別できますか」。中央は、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

